

## おまき桜



【幹周 540cm】 【推樹齢約500年】

県下一の巨木である。

麻づくりが盛んであったころ、この桜の花が咲くのを麻を蒔く目安にするため、集落の中央に位置する墓地に植えられた。樹齢を重ねるうちに幹の部分が、人工的に絞ったような肌となっており、永年の風雪に耐え抜いた長い歴史の跡がうかがえる。

4月に花が咲く（近年まで、桜の花が咲いたらそれを合図に麻の種を蒔く目安としていた）

## 昆山和尚



昆山和尚とは、三原にかつてあった宝珠庵に住まわれていた和尚さんである。享保20年（1735年）2月7日に入寂されている。

三原に住んでいた期間は一説によると5年もなかったようだが、入寂から約280年たった現在でも昆山和尚にまつわる口伝が数々残されており、三原の人々に大きく影響を与えた人物であることがわかる。極楽往生の仏様として地域でお世話されている。

遠くから今もお参りに来られる

## タキンダニの滝



山の中腹から流れる滝は、勇壮な姿でした

## 水山砥石



水山峠付近で採った砥石が有名であった。砥石の切り出しは、1軒が2代に渡り行っていた。トロッコで現在の大曲り（三原の道の大きなカーブ）の辺りまで下ろしてから運んでいた。現在も砥石の採掘跡を見ることが出来る。また採掘の名残として川で砥石を拾うこともできる

## 炭焼き窯の跡



三原の生業の1つである『炭焼き』で使用されていた窯跡。三原周辺の山には至る所で炭焼き窯の跡を見ることができる。

炭焼きとは、木炭をつくることを指す。昭和20年代が最盛期であり、当時は45名程度の従事者がいた